

第3回 伊東市津波対策松原地区協議会議事録

場 所：松原温泉会館

日 時：平成 28 年 7 月 4 日（月）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 23 名、県関係者 12 名、市関係者 4 名

1. 挨拶

挨拶



2. 熱海土木事務所から説明

- ・ 配付資料についての説明



3. 伊東市から説明

- ・ 前回出された意見についての説明
- ・ 避難計画の策定についての説明



4. 話し合い（ワークショップ）

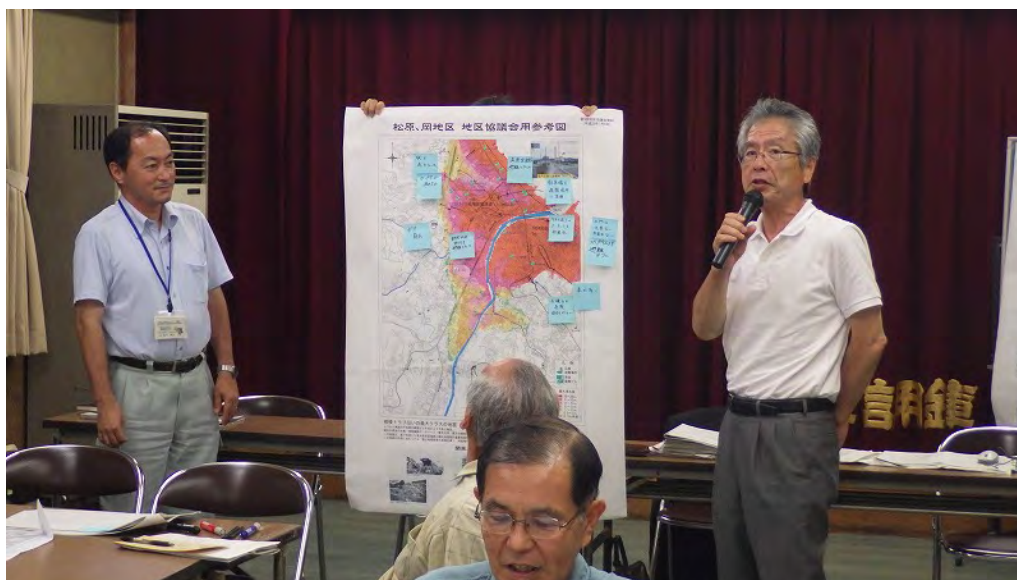
- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合ってください。
- ・グループワークの内容は、
 - ① ハード対策（護岸整備）の方針の確認
 - ② 対応策の抽出（他地区の対応策の活用や新規アイデアも）
 - ③ 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特典など）
 - ④ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）つけです。



5. 意見発表

1 グループ

まず水門の関係だが、この地図を見て例えここを止めた所でこの周りの方が早いということがあれば、ここへお金をかけるなら、その分をこの中の避難が難しい所にタワーとか造ってくれた方が、費用対効果は良いのではないかという意見が出た。避難関係では伊東大川のこちら側と向こう側で、それぞれ逃げる方向、当然のことながらこの白い方へ、みんな、逃げるということで、玖須美の方と、こちらのエリアについては玖須美の方と同じように、この神戸酒屋の裏を上がる、警察の方へ逃げるというのが1番、この辰田町・栄町関係の方の避難通路と1番近い。ただ、問題は、ここは非常に階段が危ないので、それを直してもらいたいという話が出た。それから、このアーケード、キネマ通りですけど、これを耐震化して、その上を避難タワーとして活用ができたかどうかということと、あと、何ヶ所か、この地図には載ってませんが、避難ビルに該当する建物が何ヶ所かあるんで、そこに話をしたい。この温泉会館も含めてですけど、これから作り直そうというような気があるので、是非避難ビルにしてもらいたい。あと、ほとんどの方がこの界限は伊東公園や、神社の方へ逃げるということで、そのルートについては意外としっかりしているという話があった。ただ、駅を横切るのは、ここのガードの浸水が危ないということで、どういう逃げ方がいいのかということを話し合った。



2 グループ

今1班の区長が言われたことと同じようなことが、我々の班でも出た。我々の住んでいる範囲が、やはり海岸に面したこの部分が多いということと、それから、川を境に逃げる先が違ふだろうという話がでた。

まずは、駅前からのいちよう通りは電線地中化になっているので、道の広さ、それから建物が倒れたりすることも含めて、伊東駅方面へ逃げる人が多いんじゃないか。こちら側からの人だとかう逃げてく感じ。それから、もちろん西小方面へ逃げる方も。それと、どちらかという、この地図とか、そういうのを見ているせいもあって、我々の考え方としてはどうしてもこっちの駅裏の伊東公園、それから、ヒタチ方面へ向かって逃げるようになるんじゃないかと。そうするとネックになるのが伊東駅のこの所の、ガードがやはり、問題になるだろう。コレが潰れるとか、潰れないという問題もあるが、ここに、佐藤産婦人科の所の踏切とか。こういう所がきちっと整備されてるといい。恐らく、松原神社も逃げ込み先になるんじゃないか。あとは、こちらの方の土砂崩れとかが心配になるという話が出た。

水門については同じように、やはり不要じゃないか。で、こちらの方にとっては、やはり億万坂の方面へみんな逃げるようになるんじゃないか。神戸酒屋の所の階段の手すり…恐らく、階段が古くなってるんで補強と手すりを付けて頂いたりして、ここへ逃げられるようにしてもらえるといいんじゃないか。短期的にはそういうことをやってもらいたいという話が出た。それから、この地図を見て、もし本格的に大津波が来た時に怖いという話をして、これで見ますと、最も古いのが元禄地震で、安政地震とか、それから、最近では関東大震災とかあるから、津波の最大の位置を表示するのに、地図だと平面的に見えてしまうので、例えば電信柱に元禄の時にはここまで来ました、安政の時にはここまで来ました、関東大震災の時にはここまで来ましたみたいなことが表示してあると、逃げる時も、参考になるんじゃないかというような話が出た。

それから、これは、すぐにできるわけではないが、津波の高さに反応するセンサーを設置してもらったらどうか、例えば大川橋の水害の時に、川が溢れそうになる時の、センサーがあって、役所の方ではそういうのは把握している。その逆バージョンで、例えば津波が来た時に、普段の大潮の時より例えば30cm位、水面が上がったら、大きなサイレンが鳴るとか。そうすると、この周りの人は、津波が来たんだなということで逃げ出すきっかけになるんじゃないかと。特にお年寄り達が、普段の話でも出てきますけど、津波が来たらしょうがないから、その場にいるなんていう話をされるが、やはり心理的にも何か強いものがあつた方がいい。そういう意味で、津波の高さに反応するセンサーを付けて、それが反応して大きな音が鳴るようにしてもらおうと良いのではないかという意見が出た。



3 グループ

まず、水門は要らない。水門に何十億かけるなら、今から説明するソフトに金をかけてくれということになった。水門をやらないってことは、海に近い所に色々な人がいるが、海の家は夏の間賑わっているので、もうちょっと避難誘導を徹底して、例えば漁協とか、はるひら丸とか、こういった方に、観光客に対する避難誘導のパンフレット配るとか。まず、これが1つのソフト面の意見。

それから、川西と川東によって方向が違うが、みなさんの意見を聞くと、昼間の考えだが、夜、全部停電したらどうするのか？センサーがないから全部なくなる。避難所の大きい所や避難ビルをスポットライトで照らすとか、全停電しても電池さえあれば、2、3時間照らすようにする。というのは、そこに逃げろと。センサーも停電したら感知しないので、市役所から大きいサーチライトが点いたら、これはもうやばいぞ、そっちに逃げろというような語り部をもっと育成したらどうか。東日本で生き残ったおじいちゃん・おばあちゃんが、ここはもう地震が来たら津波が来るから山へ逃げろと。そういった、要するに、語り部をもっとソフト面で教育したらどうか。

水門という発想は全く無い。語り部とか、ソフト対策に金をかけて欲しい。だからサーチライトとか、そういった誰でも分かる方向、確かに先程デジタル化とFMの方から整備すると言われたが、FMが停電したら出来ない。

全地区停電ということをもとに考えてかないと、真暗なところからどこかに逃げるには光があるだろうといった発想で提案させてもらった。山の方向へみなさんが避難するのは当たり前だが、伊東以外の人は山がどちらか分からないので山をライトで照らして欲しい。



4 グループ

4班で出た意見も大体、1班・2班と同じような意見が多く出た。松原中町とか、上町から逃げると、駅がネックになるので、その駅のフェンスを越すのに、突き破れるパネルとかに変えて欲しいという意見が出た。もう少し時間をかけて、駅の上を歩道橋みたいな形で避難ビル・避難タワーのような状況で越せるようになればいいという話も出た。

あと、松原神社の方へ逃げようとする、この辺りは崩落する危険性がある建物とかがあるので、その辺の対策をして欲しいという意見があった。それから、もう1点。暖香園とか、川良とか、この辺が浸水してきた時に逃げ場がなくなるということで、この辺のどこか空いてる所…幼稚園とか、広い所を使わせてもらって避難タワーを造れば、子供達も早く逃げられるんじゃないかという意見が出た。あと、中央商店街とキネマ通りの上に避難タワーのような逃げ込める場所を造らせてもらったかどうかという意見と、あと、水門に10億の単位の金をかけるならそういった所にお金をかけて欲しいという意見が出た。